



IB DP LANGUAGE A (LITERATURE)
STANDARD LEVEL & HIGHER LEVEL

SAPPORO KAISEI SECONDARY SCHOOL



目 次

「言語A:文学」で学ぶこと	1
3つの探探究領域	2
TOK とのつながり	4
概念的理解	7
学習者ポートフォリオ	10
シラバス	11
評価の概要(SL)	12
評価の概要(HL)	13
評価目標	14
指示用語の解説	16

「言語A:文学」で 学ぶこと

このコースにおいて、生徒は、複数の文化や歴史を超えた効果的な執筆形態としての文学のさまざまな形について学びます。文学の創作と受容に資する以下の要因を探究し、理解を深めます。

- ・ 作者と読者の創造性
- ・ 作者と読者がもつそれぞれの文脈との相互作用、および文学的伝統との相互作用の本質
- ・ 言語が意味や効果を生成する方法
- ・ 文学作品の創作と文学作品への応答がもつパフォーマンスおよび変換の可能性

多様な形式をとり、異なる時代と場所で創作された数多くの文学テキストを詳細に分析することを通して、生徒は、自分自身の解釈と他者の批判的観点を考察します。そしてこの考察は、それぞれの観点がどのように文化的信念体系によって形づくられているか、テキストの意味がその中でどのようにすり合わせられるかを探究する機会にもなります。生徒は、批評および創作プロセスに取り組むことで、テキストが読者に与える影響と、テキストの意味に対する読者の柔軟性についての認識を形づくることができます。文学に焦点をおくこのコースでは、言語の美的使用に対する感受性を培い、文学が世界的、社会的、文化的なアイデンティティーを表現し構築する方法について考える術を生徒に与えることを特に課題としています。

3つの探究領域

グループ1の学習および関連スキルの発達は3つの探究領域に分かれています。

1) 読者、筆者、テキストの相互作用の本質についての探究

この領域では、生徒に文学とその学習の本質について紹介します。文学テキストを詳細に研究するスキルとアプローチを身に付け、また以下の考察を促す概念的な問いを考えることで教科のメタ認知の意識付けにも触れることをねらいとしています。

- ・私たちが文学を学ぶのはなぜか、またどのように学ぶのか。
- ・私たちは、さまざまな文学テキストからどのような影響を受けているか。
- ・意味が構築、交渉、表現、解釈される方法には、どのようなものがあるか。
- ・言語の使用は文学形式によってどのように異なるか。
- ・文学テキストの構成やスタイルは、どのように意味に影響するか。
- ・文学テキストはどのように洞察や課題をもたらすか。

2) テキストが時間と空間にどう関わるかについての探究

この領域では、文化的状況がいかにして文学テキストの創作へ向かうのか、文学テキストが文化的状況をどのように反映または屈折しうるか、そして文化とアイデンティティが文学テキストの受け取られ方に及ぼす影響について詳細に検討します。この領域では、文学テキストのもつオープンで複合的で国際的な特性について、以下の考察を促す問いについて考慮することで、生徒の理解をより深めることをねらいとしています。

- ・文学テキストの創作と受け止め方において、文化的、歴史的文脈はどの程度重要か。
- ・自分とは異なる時代と文化から生まれた文学テキストにどのようにアプローチするか。
- ・文学テキストはどの程度他の文化について見解をもたらすか。
- ・文学テキストの意味と影響は、時間の経過とともにどのように変化するか。
- ・文学テキストはどのように文化的慣習を反映し、表現し、またその一部を形成するか。
- ・言語はどのように社会的特性やアイデンティティを表すか。

3) テキスト間相互関連性についての探究

この探究領域は、文学テキストが、過去と現在を通して、他の文学テキストとの関係性の中にどう存在するかを生徒に認識させることをねらいとしています。生徒は、文学的伝統と新しい方向性について、以下の概念的な問いについて考えます。

- ・文学テキストはどのように文学形式にまつわる伝統的方法に従っているか、あるいは逸脱しているか。
- ・文献引用方法や仕組みは、時代とともにどのように進化したか。
- ・多様な文学テキストは、どのように共通の類似点をもつことができるか。
- ・「古典的な」文学テキストという考え方は、どの程度妥当か。
- ・文学テキストは、どのようにして1つの問題、トピック、テーマについて複数の観点をもたらすことができるのか。
- ・比較や解釈はどのように変換されうるか。

TOK とのつながり

1) 読者、作者、テキスト

この領域での TOK のつながりは、文学テキストからどのような知識が構築されるか、その知識はいかに構築されるか、どの程度まで文学テキストの意味が議論の余地がないものとして考えられるかという問いにまつわるものです。

この探究領域から発生する TOK とのつながりの例

- ・文学を通して学ぶことは何か。文学が果たす役割は何か。その目的は何か。
- ・文学から得る知識の種類は、他の教科の学習から学ぶ知識とどのように異なるか。文学テキストを読むことで構築される知識に関して、どの程度確証がもてるか。
- ・文学テキストを読むことでえられる知識は、作者の意図、読者の文化的な前提、読者のコミュニティにおいてテキストに与えられる意義によってどの程度決定されるか。
- ・文学テキストの解釈で、より優れているものはあるか。解釈が複数ある場合、どのようにすりあわせを行うのが最善の方法か。
- ・文学への応答を説明するうえで、有効なエビデンスとみなされるには何が必要か。

2) 時間、空間

この領域での TOK のつながりは、文学テキストが作られた文脈がどの程度その文学テキストの意味に影響するか、また意味に関する情報を与えるか、そして、読者が文学テキストから得る知識が、受け手の文脈によってどの程度決定されるかという問いに関連します。

この探究領域から発生する TOK とのつながりの例

- ・ 読者は、自分とは異なる文脈の中で書かれた文脈の中で書かれた文学テキストをどの程度理解することができるか。
- ・ 作品を理解できるようになるためには、作家の見解をどの程度共有する必要があるか。
- ・ 1つの言語から別の言語に翻訳される際に失われるものは何か。
- ・ 詩人、劇作家、小説家、歴史家を比較した場合、時間と空間に対するアプローチはどのように異なるか。
- ・ 文学を学習し理解するうえで、カノン（正典）の考え方は役立つか。カノンはどのように決定されるか。それらが時間とともに拡張、あるいは変化する要因にはどのようなものがあるか。

3) テキスト間相互関連性：テキストをつなげる

この領域での TOK のつながりは、作者によって意図的に行われた、あるいは受け止めるという行為により読者によって作り上げられた文学テキスト間の関わりが、テキストへの認知やテキストの意味に影響するかという問いにつながります。

この探究領域から発生する TOK とのつながりの例

- ・ 文学テキストの比較対照を行ったときに、文学テキストや文学に関してどのような知識を得ることができるか。
- ・ 形式に関する規則や文学手法についての知識は、文学テキストをより効果的に、より深く理解する助けとなるか。
- ・ テキストの文学的功績についての判断はどのようにされるか。ある文学テキストが、他より優れているとみなされる要因は何か。
- ・ 文学の学習においては、時代的観点（テキストが書かれた時代ごとにグループ化する）とテーマごとのアプローチ（共通のテーマや問題ごとにグループ化する）では、どちらがより効果的か。この教科において、各テキストが知識に与える影響は何か。
- ・ 形式および時代による文学テキストの分類はどの程度有益か。文学テキストは、文学とその歴史を理解するうえでどの程度効果的か。

概念的理解

グループ1のコースでは、概念が非常に大切です。3つの探究領域にまたがって作品の学習を組織的に導くものだからです。概念は3つの探究領域に多岐にわたり関連しており、1つの領域から別の領域への移行に継続性をもたらします。またテキスト間を関連づけ、学習した作品同士がどのように関係するのかを特定しやすくなります。特に評価要素に基づく評価があるわけではありませんが、概念は生徒の研究の重要な部分となり、したがって各学習作品のディスカッションでとりあげられます。

コースの学習を形作る7つの概念は、グループ1のコースにおいて中心的な役割を果たすことから選ばれました。これらの概念は言語と文学の学習の中心をなすもので、注意すべき点でもあり探究の焦点にもなってきました。7つの概念の簡単な説明は次項の通りです。これらの説明は総括的なものではありませんが、コースの考え方を支える手引きとなります。

7つの概念

アイデンティティー
文化
創造性
コミュニケーション
観点
変換
表現

アイデンティティー	<p>テキストを読むとき、生徒はさまざまな観点、ヴォイス（語り手や登場人物の考え方や話し方の特徴）、登場人物に出会い、関わります。テキストを読み、解釈しているときに、そこに表現される観点は作者のアイデンティティーをある程度反映するものであろうと仮定するのが普通です。しかし、筆者とテキストにおけるさまざまな観点やヴォイスの関係は複雑であることが多く、アイデンティティーの概念はわかりにくいものです。同じ作家による色々なテキストを読むことで浮かび上がる人物像もまた、ディスカッションを複雑にします。また逆に、テキストを読むときの読者のアイデンティティーの関わり方も、読解という行為を分析するにあたって同じくらいの重要性をもちます。</p>
文化	<p>文化の概念は、「言語と文学」の核をなします。文化の概念によって、テキストが、その創作と受容の文脈にどう関わるか、またテキスト中にあらわれるそれぞれの価値観、信念、態度とどう関わるかという問いが生まれます。この概念は個々のテキストと、それ以前の記述の慣習との関係性についても大切な役割を果たします。文化の概念をテキストの学習に適用することで、テキストはある特定の文化的、文学的文脈の産物であり、それらがどのように関わり合っているかという振り返りにつながります。</p>
創造性	<p>創造性は読む、書くという経験において重要な要素です。この概念は書くという行為、そして想像力が果たす役割を分析し理解するための基盤となります。読むという行為にあてはめた場合、創造性は、読者がテキストと創造的に関わり、そこから既存の解釈を超えた潜在的な意味を新たに生成するという重要性に気づかせてくれます。創造性はまた、独創性についての考え方や、テキストが創作され受け入れられるときに独創性がどの程度重要になるかという問いにも関わります。</p>
コミュニケーション	<p>コミュニケーションの概念はテキストという手段を介した作者と読者の関係性に関する問いにまつわるものです。作者が選択したスタイルや構成がコミュニケーションをどの程度円滑にするかという点は、本探究で分析する側面となりえます。作者は特定の読者を想定していることもあります。それはつまり、読者の知識や観点について作者が仮説を立てているということであり、これにより、他の人に比べ、一部の読者とのコミュニケーションが容易になることもあります。また、コミュニケーションを実現するためにテキストが読者に求める協力の度合い、読者がコミュニケーションに関わろうとする心構えもディスカッションの重要なトピックになります。協力的な読者を得た時であっても、テキストの意味は決して一律ではありません。そのためコミュニケーションの概念は、文学テキストと非文学テキストのどちらに関しても特に生産的な概念であり、かつ問題を生じさせる可能性のある概念でもあります。</p>

観 点	<p>テキストは複数の観点をあらわす場合があり、そこに作者の見解が反映されていることもあれば、されていないこともあります。読者もまた自分自身の観点をもちてテキストと関わります。このようにさまざまな観点がテキストの解釈に影響を及ぼすため、批判的な見方とディスカッションが必要になります。読む、または書くという行為がある特定の時間と場所で起こるという事実は、テキストが創作され受け入れられた文脈がどの程度そういった観点に影響を及ぼし、形づくってきたかという新たな問いを投げかけます。</p>
変 換	<p>テキスト間のつながりに関する学習では、3つの探究領域のうちの1つ、つまり「テキスト間相互関連性：テキストをつなげる」に焦点をあてます。テキストが互いに参照し合い、要素を充ちあひ、さまざまな美的目的あるいはコミュニケーション目的に合うよう変換する複雑な方法は、テキストを創作する過程における変換の重要性を示すものです。また、読むという行為自体も、潜在的にテキストや読者に変化をもたらすものです。読者によって個人的な解釈が異なり、テキストを変換させていきます。一方、テキストもまた読者に影響を及ぼし、そこから行動へ、そして現実の変格へとつながっていく可能性もあります。</p>
表 現	<p>言語と文学の現実との関わり方は、言語学や文学理論の研究者の間で時代を問わず大きな論争の的となってきました。作者の発言や記述をもとに、現実との関わり方についてさまざまな主張がされてきました。文学は現実をできるだけ正確に表すべきであるといった主張から、芸術は現実からも、作品の中で現実を表現すべきという義務からも完全に切り離され自由でなければならない、という主張もあります。このような議論にかかわらず、表現の概念は形式や構成が意味とどのように交わり関わるかということに関連して、本科目の中核となるものです。</p>

学習者ポートフォリオ

「言語A：文学」のコースにおいて学習者ポートフォリオは核となる要素で、すべての生徒に必須です。これは生徒の学習を個々にまとめたもので、コースの2年間を通して集められます。ポートフォリオ自体は評価の対象にはなりません、評価のための準備の基礎となるものです。ある要素において生徒の成果物が生徒本人が取り組んだものであることを確認する、学問的誠実性の原理が護られていることを証明する、学校のシラバス実施状況を評価するなどの目的で、学習者ポートフォリオの提出が求められる場合があります。次のようなものを記録するために活用できます。

- ・コースで示された概念的問いに関連する振り返り
- ・テキストの探究と、それらによりもたらされる、実際のグローバルな社会的問題に対する知見
- ・学習したさまざまなテキストのつながりに関する振り返り
- ・授業外で行われた読書、リサーチ、探究
- ・ディスカッションの過程を記したレポート
- ・受け取ったフィードバックの記録
- ・個人口述の基礎となる、適切な抜粋を集めたもの
- ・自己評価の記録

教師は学習者ポートフォリオの指針を自由に設定し管理することができますが、生徒が自信の進歩を自由に記録できるよう、生徒なりのやり方でまとめることが推奨されます。

全ての評価要素を満たすために必要な成果物は、ポートフォリオの内容を発展させ取り出されたものであるようにしてください。そのため、各生徒のポートフォリオの一番最後に「学習作品フォーム」をつける必要があります。このフォームは、コースの一環として選択された作品について詳しく述べるものです。

シラバス

第1期 学習者ポートフォリオや試験について知る・テキスト間相互関連性についての探究

Standard Level / Higher Level	時	Higher Level	時
小説	32	小説	36
戯曲	20		
小説	20		

第2期 テキストが時間と空間にどう関わるかについての探究

Standard Level / Higher Level	時	Higher Level	時
翻訳文学	36	小説	20
翻訳文学	40	戯曲	24
翻訳文学	36		

第3期 読者、作者、テキストの相互作用の本質についての探究

Standard Level / Higher Level	時	Higher Level	時
詩	36	ノンフィクション	20
ノンフィクション	36	翻訳文学	36
ノンフィクション	16		

- ・各期に探究領域を指定していますが、テキストの学習は領域間で重複することが多くあるため、あくまで目安です。
- ・第2期修了後、HLの生徒は各自でHL小論文に取り組みます。（提出は6年次8月）
- ・内部評価（個人口述）のための校内試験は、5年次末に行います。
- ・第3期終了後、最終試験のための準備をします。最終試験（試験問題1・試験問題2）は6年次11月に行われます。
- ・上記表中の時間数は、50分に換算した授業時数です。

評価の概要 (SL)

評価要素	配点比率
<p>外部評価</p> <p>筆記試験 <small>ペーパー</small> 試験問題 1 : 設問付き文学分析 (1 時間 30 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学形式の異なる 2 つの課題文で構成され、それぞれに 1 問ずつ設問があります。 ・生徒は 1 つを選択し、分析を書きます。(20 点) <p>筆記試験 <small>ペーパー</small> 試験問題 2 : 比較小論文 (1 時間 30 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験問題は、4 つの一般的な質問で構成されます。このうちの 1 問について、コースで学習した 2 つの作品に基づいて比較小論文を書きます。(25 点) 	<p>70%</p> <p>(35%)</p> <p>(35%)</p>
<p>内部評価</p> <p>内部評価は学校内の教師が行い、コース修了後に I B が外部モデレーションを行います。</p> <p>個人口述 (15 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習している言語で原書が書かれた 1 つの作品からの抜粋、および 1 つの翻訳作品からの抜粋を元に、生徒はあらかじめ用意した回答を 10 分間で発表し、その後 5 分間、教師から次のテーマに基づいた質問をされます。 <p>「自分で選んだグローバルな問題が、学習した 2 つの作品の内容と形式を通してどのように表現されているか分析しなさい。」(40 点)</p>	<p>30%</p>

評価の概要 (HL)

評価要素	配点比率
<p>外部評価</p> <p>筆記試験 <small>ペーパー</small> 試験問題 1 : 設問付き文学分析 (2 時間 15 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学形式の異なる 2 つの課題文で構成され、それぞれに 1 問ずつ設問があります。 それぞれについて分析を書きます。(40 点) <p>筆記試験 <small>ペーパー</small> 試験問題 2 : 比較小論文 (1 時間 4 5 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験問題は、4 つの一般的な質問で構成されます。このうちの 1 問について、コースで学習した 2 つの作品に基づいて比較小論文を書きます。(30 点) <p>HL 小論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースで学習した 1 つの文学テキストまたは作品について小論文を書きます。(20 点) ・小論文は、2400 字から 3000 字です。 	<p>80% (35%)</p> <p>(25%)</p> <p>(20%)</p>
<p>内部評価</p> <p>内部評価は学校内の教師が行い、コース修了後に IB が外部モデレーションを行います。</p> <p>個人口述 (15 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習している言語で原書が書かれた 1 つの作品からの抜粋、および 1 つの翻訳作品からの抜粋を元に、生徒はあらかじめ用意した回答を 10 分間で発表し、その後 5 分間、教師から次のテーマに基づいた質問をされます。 <p>「自分で選んだグローバルな問題が、学習した 2 つの作品の内容と形式を通してどのように表現されているか分析しなさい。」(40 点)</p>	<p>20%</p>

評価目標

評価目標	評価要素	規 準
知識、理解、解釈	試験問題 1	初めて読む文学作品の抜粋に対して、文学形式に関する知識と理解を示し、テキストや抜粋を自分なりに解釈し、結論を導き出す。
	試験問題 2	2つの作品に関する小論文であり、与えられた焦点と関連づけて作品への知識と理解を示し、作品が示唆するもの、および類似点と相違点を解釈する。
	内部評価	コース内で学習した2つの作品についての知識と理解を示し、またそれらをグローバルな問題に関連づけて解釈する。
	HL 小論文	学習した文学テキストまたは作品のうち1つに対する知識と理解を示し、自分で選択した探究の道筋に関連してそのテキストまたは作品を解釈する。
分析と評価	試験問題 1	初めて読む文学作品の抜粋を探究し、それに対し、作者の選択がどのように意味づけに寄与したのかの分析と評価を行う。
	試験問題 2	与えられた問いで聞かれていることに関して、2つの学習作品の比較分析と評価を行う。
	内部評価	2つの学習作品について、両方に見られるグローバルな問題という観点で評価し、それら独自の観点が作者の選択によってどのように構築されたかを分析、評価する。
	HL 小論文	自分で選択した探究の道筋に関連して、学習した文学テキストあるいは作品のうち1つを分析・評価する。

表現する	試験問題 1	正式な小論文にふさわしい言語を用い、理路整然とした一貫性のある分析を行う。
	試験問題 2	理路整然とし、2つの作品をバランスよく比較しており、与えられた問いに的確に焦点を合わせた正式な小論文を書く。
	内部評価	生徒自身が選択したグローバルな問題に焦点をあてながら、理路整然としており、一貫性と説得力をもつバランスのとれた口述発表をする。
	HL 小論文	文学テキストや作品に関連して、探究に焦点をあてた正式な小論文を書く。小論文は正式なものであり、効果的に構成され、優れた文献参照・引用スキルを示していること。



指示用語の解説

「文学」のための指示用語

生徒は、評価目標と評価規準で用いられる次の重要な用語や表現に慣れておく必要があります。これらは、以下の定義に基づいて理解する必要があります。試験問題でも使用される用語がありますが、ほとんどはさまざまな評価規準の説明文で達成度を説明するのに使用されることが多い用語です。

「文学」のための指示用語

指示用語	評価目標	定義
分析しなさい (Analyse)	2、3	本質的な要素または構造を明らかにするために分解しなさい。
コメントしなさい (Comment)	2、3	与えられた記述または計算結果に基づき、見解を述べなさい。
比較しなさい (Compare)	1、2、3	2つ（またはそれ以上）の事柄または状況の類似点について、常に双方（またはすべて）について言及しながら、説明しなさい。
比較・対比しなさい (Compare and Contrast)	1、2、3	2つ（またはそれ以上）の事柄または状況の類似点および相違点について、常に双方（またはすべて）について言及しながら説明しなさい。
対比しなさい (Contrast)	1、2、3	2つ（またはそれ以上）の事柄または状況の相違点について、常に双方（またはすべて）について言及しながら、説明しなさい。
詳しく述べなさい (Describe)	1、3	詳細に述べなさい。
論じなさい (Discuss)	1、2、3	いくつかの議論、要素、または仮説を考慮し、バランスよく批評しなさい。意見または結論は、適切な証拠を挙げて、はっきりと述べなさい。
評価しなさい (Evaluate)	2、3	長所および短所を比較し、価値を定めなさい。
考察しなさい (Examine)	2、3	論点の前提や相互関係が明らかになるように、主張または概念について熟考しなさい。
説明しなさい (Explain)	1、2、3	理由や要因などを詳しく述べなさい。
探求しなさい (Explore)	2、3	何かを発見するための系統だったプロセスに取り組みなさい。
解釈しなさい (Interpret)	1、3	知識と理解を用いて、与えられた情報から傾向をつかんで結論を導き出しなさい。
調べなさい (Investigate)	1、2	観察、調査、または詳細かつ体系的な検証を行い、事実を立証し新たな結論を導き出しなさい。
正当化しなさい (Justify)	1、2、3	答えや結論を裏づける妥当な理由やエビデンスを述べなさい。
発表しなさい (Present)	3	展示、観察、考察または熟慮のために提供しなさい。
どの程度 (To what extent)	1、2、3	主張または概念の長所または短所を検討しなさい。意見および結論ははっきりと提示し、適切なエビデンスおよび論理的に正しい論拠をもたせなさい。